

事業の背景・目的

栃木県においてサクラ等に被害を発生させ、その生息域が拡大しているクビアカツヤカミキリについて、栃木県クビアカツヤカミキリ被害対策協議会防除方針に基づき県内で効率的、計画的な防除を進めるため、緊急的な防除の実施に必要な資機材の配備、県民等に対して防除方法等を周知する研修の開催、県全域の監視ポイント等における被害確認調査の実施を行う。また、被害地域の拡大防止及び縮小に向け市町と連携し対策を実施する。



クビアカツヤカミキリにより
枯死したサクラ

事業の内容

防除に必要な資機材を県に配備する等により、各防除主体が迅速に防除を実施した。

ア 防除事業

- ・被害発生地域の外郭からの緊急的、計画的な防除を行うための薬剤や資材を配備し被害市町に対して、樹幹注入剤・注入器等、殺虫剤（スプレータイプ）、ネット巻用資材の配備を行った。
- ・被害地域の外側における新規被害への緊急的防除を2箇所で行った。
- ・新規被害箇所において被害木の伐採及び被害地外郭での樹幹注入を実施した。

イ 普及啓発事業

- ・被害未発生地域における研修を2回、被害発生地域における実地研修を4回実施した。
- ・別途、栃木県生物多様性アドバイザー向けの研修の中でクビアカツヤカミキリについて講義を行った（2月11日開催）。
- ・チラシ38,000部、防除マニュアル1,400部を印刷した。

ウ 被害状況監視事業

- ・県内全市町において監視ポイント計163箇所が定められ、監視を実施した。
- ・被害発生状況確認調査（委託）を実施した。

得られた成果

配備された資材を活用して、被害外郭部における個人宅等へ庭木の防除及び防除指導を実施し、薬剤注入や伐採により、被害地域の外側の被害木を減少させることができた。

本事業を活用したことにより、クビアカツヤカミキリの生態や防除方法の普及啓発が進み、被害地域においては薬剤の使用やネット巻が浸透し、被害地域外においても警戒が行われている。

今後は、数種の薬剤の組合せや被害木周辺の未被害木への予防策も含めた体系的な防除を検討しながら、来年度もクビアカツヤカミキリの被害拡大防止を確実に実施する必要がある。



樹幹注入の様子